



Title	まえがき
Author(s)	江田, 真毅; 天野, 哲也
Citation	北海道大学総合博物館研究報告, 6
Issue Date	2013-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/52579
Type	bulletin (article)
File Information	preface.pdf



[Instructions for use](#)

まえがき

環オホーツク海地域における前近代交易網の発達と諸民族形成史の研究

オホーツク海は、昆布など海藻や魚類、アザラシやラッコほか海獣類の宝庫であり、サケ・マスが大量に遡上する周辺地域にはテンやキツネなどの毛皮獣そしてヒグマが豊富に棲息する。これらの生物資源は、環オホーツク海地域の諸集団の生活を支えただけでなく、鉄鋼製品や衣服・装飾品などを入手するための代価すなわち特産品の意義ももった。他方、これらの特産品を必要とした中国や日本などの古代国家の側も、政治的支配が及ぶ範囲内では主に租税によって直接に、またその範囲外に対しては朝貢に対する饗応・回賜のシステムなど交易手段によって間接的に、上記の資源の収集・獲得に努めた。かくして環オホーツク海世界は、大動脈アムールなどの河川交通で中国本土と結ばれるとともに、沿岸交通によって環日本海世界・環シナ海世界ともリンクした。

中国さらに日本を基点とするこの広大な相互関連・交易・物流ネットワークの伸張・強化に、古代・中世、極東にあった諸集団は技術の改良や領域の明確化など生産体制の強化で対応し、その過程において民族的な形成が進行した。次いでこの地域に近代国家の政治的支配が及ぶに至って、これらの諸民族は好むと好まざるとにかかわらず国家に包摂・分断され変容を遂げて行った。北海道においては、この最後の段階のアイヌ民族の劇的な変化を、明治維新前の八雲墓地におけるマレクやタシロ、ナタほかの豊富な副葬品と、時間的にはこれに連続する、維新後の静内墓地における男女を問わず握りハサミー丁と言う副葬品（すなわち漁場労働者への転換を示す）の貧寒で画一的な内容のコントラストが雄弁に物語っている。

本論集は、上記のタイトルで2009年-2012年（平成21年度-24年度）の期間、文部科学省科学研究費補助金（海外、基盤研究B）〔課題番号21401023〕（研究代表者 天野哲也）に拠って進めた共同研究の成果を中心に構成されている。もとより、時間的にも空間的にも範囲広大なこのテーマに対して4年間という限られた時間・人員で取り組んできたために、得られた成果は限定的である。そこで本論集では、この研究を通じて浮かび上がってきた諸課題を明らかにし、今後の展望を提示する努力もおこなった。

なお、オホーツク海北岸部における歴史の展開については、北海道大学総合博物館特任教授として招聘して共同研究をおこなったA.レベジンツェフ氏が書き下ろした論文を、都合により『北海道考古学』48輯（2012年）に邦訳・掲載したので参照されたい。

2013年3月31日

北海道大学総合博物館
江田真毅
天野哲也